

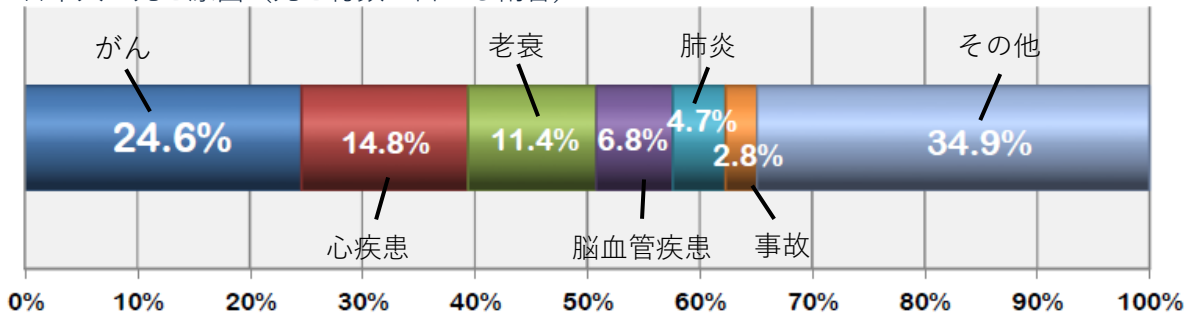
知っていますか？がんのこと

年 組 名前

日本人の死亡原因第1位は、「がん」です。
1年間に亡くなる人の、およそ3人に1人は、がんが原因といわれています。また、一生のうちに2人に1人が、がんにかかるといわれています。つまり、がんは、誰にでもかかる可能性がある身近な病気なのです。



日本人の死亡原因（死亡総数に占める割合）



出典：令和4年人口動態統計

茨城県のがんの現状

茨城県では、平成27年12月に「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」（令和6年6月一部改正）を施行し、がん対策を推進しています。

茨城県は、昭和60年から「がん」が死亡原因の第1位であり、男女別の部位別死亡者数とかかった人数の順番は、下の表のとおりです。性別によって、違いがあることが分かります。

男性

死亡者数	かかった人の数	
肺がん	前立腺がん	第1位
大腸がん	大腸がん	第2位
胃がん	肺がん	第3位

女性

死亡者数	かかった人の数
大腸がん	乳がん
肺がん	大腸がん
すい臓がん	肺がん

出典：死亡者数：令和4年茨城県人口動態統計

かかった人の数：令和2年全国がん登録罹患患者数・率報告（厚生労働省）より茨城県のデータを抽出



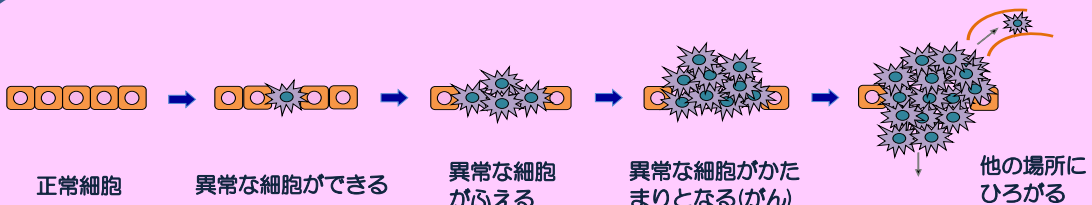
上の表を見ると、部位によって、がんにかかった人が多くても、亡くなった人は多くないがんがあるようです。

つまり、部位によって、治りやすいがんと、そうではないがんがあるようです。どのがんなのか、考えてみましょう。



がんは、どのようにしてできるのかな？ どうして、がんにかかるのかな？

からだの中にある細胞が、新しい細胞に生まれ変わる（細胞分裂）ときに傷がついて、異常な細胞になってしまうことがあります。この細胞が増え続けてかたまりになったものを「がん」といいます。がん細胞ができてしまっても、がん細胞を攻撃し、体を守ろうとする働きが人間には備わっています。

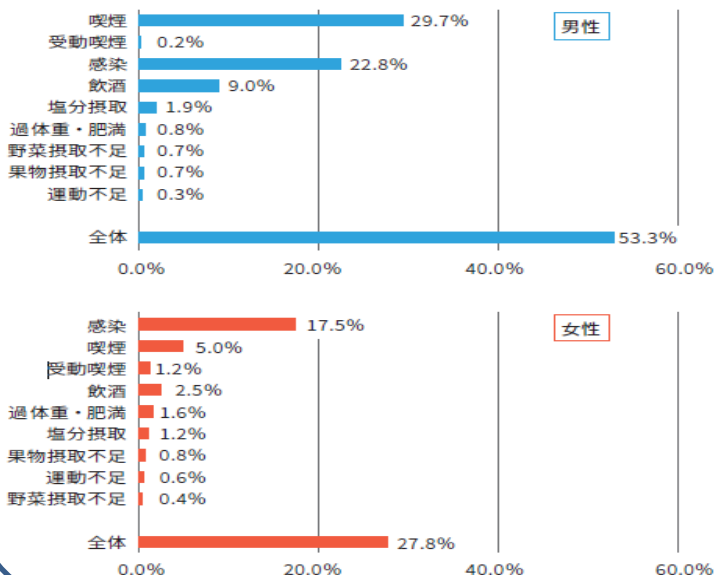


国立がん研究センターがん情報サービス「患者必携 がんになったら手にとるガイド」より改変

主ながんの種類

がんの名称	特徴 など
胃がん	・ピロリ菌(※)の感染が発病にかかわっていると考えられている。
大腸がん	・運動不足や肥満、大量の飲酒などが発病に関連している。
肺がん	・我が国では、死亡者数が最も多く、特に男性に多い。最大の原因は喫煙である。
肝臓がん	・主な原因は肝炎ウイルスの感染だが、大量の飲酒の習慣も、肝臓がんになるおそれがある。
乳がん	・乳房内のしこりや皮膚のくぼみなどの有無を自己チェックすることが重要である。
子宮がん	・子宮の入口(頸(けい)部)にできるものと、子宮本体(体部)にできるものがある。 ・ウイルス感染によものもある。

日本人におけるがんの主な要因



がんの原因は、男性では喫煙が、女性ではウイルスや細菌が高い割合を占めているようです。

また、原因がわからないがんも多くあることも覚えておきましょう。

がんの原因を理解することは、次のページに示すがんの予防法を実践するための第一歩となります。

科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究を基に国立がん研究センター作成



がんにかかりたくありません。がんにかからない方法を教えてください。

これさえ守れば絶対にがんにならないという方法はありませんが、多くのがんは予防することができます。これまでの研究からわかっているがんの予防法を実践しましょう。



がんの予防法



たばこを絶対に吸わない！
(他人のたばこの煙も避ける)



バランスのよい食事をする

5つの生活習慣



適正体重を守る
(やせすぎもよくありません)



お酒を飲み過ぎない
(お酒は20歳になってから!)



日常生活を活動的に

その他：がんの原因といわれているウイルスや細菌の感染検査及び治療、ワクチン接種

「日本人のためのがん予防法」科学的根拠に基づく発がん性・がん予防の効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究（平成29年8月国立がん研究センター）をもとに作成



みなさんの食生活や運動習慣はいかがですか？ よりよい生活習慣は、体調を整え、がんから体を守ろうとする働きを高めます。がんに限らず、健康のためにどうしたらいいか考えてみましょう。

各種がん検診

がんの種類	対象年齢	茨城県の実受診率*
胃がん	50歳以上 (一部40歳以上)	46.8%
肺がん	40歳以上	50.3%
大腸がん	40歳以上	45.1%
乳がん	40歳以上	46.6%
子宮頸がん	20歳以上	42.4%

*：国民生活基礎調査（2022年）より

予防法を守っていても、がんになる危険性はゼロではありません。そのために、がん検診があります。がんは、はじめのうちは、症状がでないことがほとんどです。症状が出ないうちにがん検診を受けることが重要です。

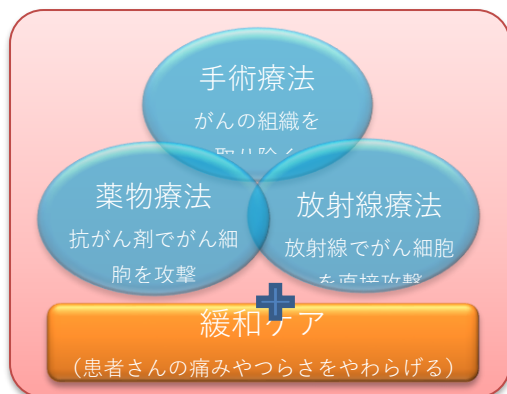


がん検診の実受診率は、低いのが現状です。症状が出てから見つかるような進行したがんの患者さんは、長期入院が必要になることもあるなど、心も体も経済的にも負担がかかるので、早く見つけて早く治療することがとても重要です。



もし、がんになったら、どんな治療をするのですか？ がんは治るのですか？

がんの治療



茨城県にはがんの治療を専門とする病院があります。がんの種類や進行の程度によって、患者さんとしっかり相談して、治療方法を決めていきます。また、「緩和ケア」も治療と同時に行われます。

がんは早い段階であれば、治せる可能性が確実に高くなります。



もし、がんになったら、どうしていいかわからなくなるかも。



患者さんは、がんを治療している間、心も体も大きな負担がかかります。がんの治療を専門とする病院には相談窓口があり、また、がん経験者が自分の経験を活かしながら相談や支援を行う活動（ピアサポートや患者会）もあるので、遠慮なく相談することが大切です。



がんと診断されたら、患者さんはとても不安になり、落ち込んだりします。家族や周囲の人々の支えがとても大切です。また、家族にもさまざまな負担がかかるので、社会全体で患者さんとその家族を支えることが必要です。がんになっても自分らしい生活ができるといいですね。

がんについて知ろう！

- 「文部科学省 HP」(がん教育推進のための教材 補助教材)
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm



- 「茨城県ホームページ総合がん情報サイトいばらき」
<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yobo/sogo/yobo/cancergrop/catop.html>

